

§はじめに

- ・暗闇（トンネル）の人生==>誰でも体験
  - ー本日扱うツァラアト患者の人生はまさに暗闇の人生
  - ーヨハ 12:46 わたしは光として世に來ました。わたしを信じる者が、だれもやみの中にとどまることのないためです。
- ・例話：ユダヤ人のジャック・シュワルツの体験

§ 目的 “イエスへの信仰によって、希望に満ち溢れた人生が約束されていることを喜びをもって再確認する

§ 内容

- ・聖書箇所：ルカ 5：12-16
- ・4つのポイント
 

①ツァラアト患者	5：12
②イエスの癒し	5：13-14
③イエスのうわさ	5：15
④静まられるイエス	5：16

§ 解説

<文脈・背景>

- ①ツァラアト患者
  1. ツァラアトの人（12節）
  2. ツァラアト患者の懇願（12節）
- ②イエスの癒し
  1. 患者に触れられるイエス（13節） 汚れに優るイエスの愛
  2. イエスのことば“わたしの心だ。きよくなれ”（13節） ことばを發するだけ（悪霊追い出しと同じ）
  3. たちどころの癒し（13節）
  4. イエスの命令（14節）
- ③イエスのうわさ（15節）
  1. 黙っておれないツァラアト患者
  2. 群衆の期待（15節）
- ④静まられるイエス（16節）
  1. 荒野での祈り（16節）
  2. イエスの心境？（聖書に記述が無いので、聖書解釈ではなく私個人の推定）

§ 適用

- ①ツァラアトよりも恐ろしい罪を覚え、そのきよめをイエスに信頼して懇願する
  1. 罪の恐ろしさ：神から隔離されていること==>まさに暗闇の人生==>心にハンセン病を抱えていると同じ
  2. ロマ 6:23 罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。
  3. 罪を悔い改めない時の苦しみ：詩 32:3 私は黙っていたときには、一日中、うめいて、私の骨々は疲れ果てました。
  4. 人間の罪深さ
- ②イエスの靈的癒を享受し、喜び感謝に満たされた歩みをする
  1. クリスチャンのハンセン病患者の例：
  2. 罪からの解放==>神の国への復帰

§ 締めくくりのみことば

ヨハネ 8:12 イエスはまた彼らに語って言われた。（カトレヤの花言葉：神秘的な光）

「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」